

技術資料 #57

トラブルシューティング

焚き始めの煙突の引き

煙突の冷却により、ストーブを使っていない静かな寒い日に、冷気が煙突を下って流れ込んでくる場合、自主的に始められない煙突と考えられる原因があるかもしれません。ほとんどの場合、あらかじめ煙突を温めると修正することができますが、しかしながら他の条件が存在するかもしれません。

もし、「煙の逆流」が起こったら、問題が改善されるまで、ストーブの使用は避けるべき重要な問題です。

原因	解決方法
空気コントロールが閉まっている	空気コントロールレバーを開けてください。
空気流入が塞がれている	一次空気を取り入れる通路が塞がれていないかチェックします。エアーコンプレッサーか掃除機を使用し、空気取り入れレバーを開き、ストーブの下部の取り入れ口に吹いてください。ドアフレーム上部から空気を感ずることができます。(作業は 48 時間以上ストーブが使われていない状態で行ってください。)
焚きつけの薪の大きさ	焚きつけ用には、よく乾燥し、細かく割った薪を使うと、点火が迅速でスムーズです。
煙突が冷たい空気でブロックされている	煙突をプレヒートしてください。焚きつけに点火する前に、ねじった新聞紙に火を着け、炉内上部にかざし、ドラフトをチェックした後、焚きつけに着火してください。
不適當な煙突	オーナーズマニュアルで指示されている煙突のサイズと高さの必要条件を満たしているか確認します。 ラインの修正や不適當な煙突の交換をしてください。
不十分なドラフト (#21 参照)	空気層付の煙突を断熱材仕様の煙突に取替えてください。 風圧帯に入り負圧を引き起こすような周囲の環境要因(風の負荷や木、煙突の能力に悪影響を及ぼすような他の諸条件)をチェックします。必要であれば、煙突を追加して高くします。

注: 英語表記で air-insulated chimney は、空気層付煙突 insulated chimney は断熱煙突と翻訳しています。

備考:

着火剤(パラフィン系の固形燃料もしくはゲル状)は薪ストーブの着火目的のために製造された製品のみ使用してください。灯油等の液体燃料は決して使用しないでください。